

長尾台小学校誕生秘話

昔はこの地区に小学校がなく、長尾小へ通っていましたが、とても遠く、児童数の急増で大変でした。そこでまずは南ひばりに長尾東小(仮)を計画、しかし低地のため長尾台に建設場所を変更しました。長尾台小学校は1974年春の開校を目指しましたが、谷あいでの危険と訴える地元との協議や大規模な造成等で工事は大幅に遅れました。1977年春から児童495名が新校へ通う予定も、さらに二カ月延期になり長尾小の仮設校舎でのスタートでした。早期に過密解消を願う長尾小育友会は対策委員会を発足させ、母親の有志は市長室前で座込みを行い、それがマスコミでも報道されました。親たちの子どもを想う熱意が市長へ届き開校を早めることになりました。



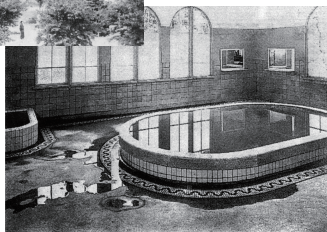
開校当時(小学校より提供)

新花屋敷温泉伝説

今のふじガ丘あたりには、かつてお洒落な洋風2階建ての温泉場がありました。新花屋敷温泉です。建物は、回廊のあるイタリア中世風のモダンなもので、1階は円形窓、モザイク模様の床が施された大浴場と家族風呂もありました。2階のレストランのカレーライスが好評だったそうです。メリーゴーランドのある遊園地、サルやクジャクなどのいる動物園も併設されていました。



伝説の新花屋敷温泉



伝説の大浴場

山手公園は寄付で造られた!

雲雀丘山手公園は平成6年に、土地を地元の所有者が提供し、住民の寄付金で市が整備したものです。整備計画段階での住民アンケートの結果、「造るのなら最良の公園に」との声が多くあり、自治会員から3千万円を超えるご厚志が寄せられました。当時の自治会長は、地域内で葬儀があると「免税があるので相続税が決まればその中から公園整備に寄付を」と伝えて回ったそうです。ご香典は自腹だったそうです。感謝!



わたしもへえ〜が
いっぱいだよ!

コミュニティ ひばりトリビア

高碕記念館にワニがいた!

大正12年に医師の諏訪氏のために建てられ、ヴォーリスの設計で有名な洋館の高碕記念館。この美しい邸内にワニがいたなんて、皆さんは想像できますか。昭和4年からここに住んだ高碕達之助氏は、ワニやニシキヘビなどの爬虫類から小鳥にいたるまで、多くの生き物を飼育し、なんとダチョウの卵の人工ふ化にも成功しました。高碕氏は「東洋食品工業短期大学・東洋食品研究所」の創業者で、政財界でも活躍した偉人だけでなく、自然や植物を大切にするとっても愛情深い人なでした。



ワニを持つ高碕達之助氏



高碕記念館の竣工当時の外観

「雲雀丘」由来の 雲雀滝

雲雀丘の住宅地開発は、大正4年、阿部元太郎氏が自身の理想とする住宅地を創るために約10万坪の土地を購入したことから始まりました。地名の由来はこの地に雲雀滝という滝があることから、阿部氏が命名したといわれています。

雲雀滝の由来はというと、この滝の音がひばりのさえずりに似ていることからだそうです。雲雀滝



きれいな水が落ちる雲雀滝



みんなの憩いの場、雲雀丘山手公園

松ガ丘公園は池だった!

松ガ丘公園は、昭和34年に開業した花屋敷ゴルフ場が、昭和48年に移転した広大な跡地の一部で、その後の住宅地開発で池の跡地を公園として昭和50年頃に整備されました。春はサクラやツツジ、秋はモミジが鮮やかで、桜祭りや盆踊りなどが行われ、地域の憩いの場となっています。公園内の橋は、当時の池の名残と云われています。



付近の航空写真(右1964年・左1974年)
(国土地理院 地図・空中閲覧サービスの空中写真より編集)

まぼろしの トロリーバス

大正末頃、満願寺の奥に新花屋敷温泉がありました。その運営会社が、昭和3年に阪急旧花屋敷駅前(花屋敷バス停付近)から無軌道電車を運行させました。長い急な坂道に適していましたが、悪路のため故障やトラブルが多く、3年余りで廃線となりました。因みに運賃は片道10銭、当時の大阪市営バスは一区6銭でした。花屋敷駅側には道路に人力の回転台を、終点の峠(長尾台小前バス停付近)には回転ループがありました。



トロリーバス。乗ってみたいな!

長尾台はジャズの街?

長尾台自治会館にはたくさんのジャズのレコードがあります。音楽好きな住民の方々からの寄付などで増えていったのだそう。ジャズだけでなくクラシックからポップスまで幅広く取り揃え、スピーカーやプロジェクターなど機材の設備も充実しています。過去には生バンドを呼んで演奏会を開いたことも。毎月第3土曜日には「レコード・バー」というイベントを開催しています。夕方の6時からおのの飲食物を持ち寄って、みんなでレコードを聴きながら楽しいひとときを過ごしています。懐かしの名曲をいい音で聴きたい方、ぜひ長尾台に遊びにきては!



奥にはレコードがいっぱい。

満願寺 願いが叶う。だけじゃない



東屋の中にはピザ窯であり、お寺とは思えない!

坂田金時のお墓があるなど歴史ある有名なお寺で、地域の安らぎの場でもある満願寺は今もなお驚きの進化を遂げているのです。訪れた人々に散策を楽しんでもらいたい!と広大な里山を整備し、東屋、散策路、子どもが遊べる広場、ピザ釜やバーベキューコンロまで作られました。さらに北欧フィンランドのスポーツ「モルック」の競技場も出来て、愛好家の中ではモルックの聖地との呼び名が広がっています。実はまだまだ開拓中とのこと。この先も色んなアイディアが浮かんでいるそうですよ。訪れるのが楽しみです!

「北雲雀きずきの森」 名前の由来って?



みはらし広場からの眺めはサイコー!



きずき小舎

以前はゴルフ場やレジャー施設であった場所を整備し、里山として復元した北雲雀きずきの森。2009(平成21)年コミュニティひばり環境部会で命名されました。そしてこの「きずき」には3つの意味がこめられています。
① 気付き…(自然のすばらしさ、緑の必要性に気付く)
② 木好き…(木、樹の大切さを知り好きになる)
③ 築き…(地域住民、市民により築いていく森)
自然緑地として、ボランティアが整備・保全活動や自然とふれあえるイベントを行なっています。